

【特集2】

「退院支援マップ」で、 患者さんの セルフモニタリング力を 高めよう！

精神科急性期病棟で、看護師・作業療法士が協働

【この特集は……】

退院してしばらくすると、通院や服薬を中断してしまい、
症状が再燃して再入院してしまう、いわゆる回転ドア現象。
この現象がなぜ起きるのかを考えた時、国府台病院の看護師と作業療法士は
「患者さんに、自分の状態に気づく力（セルフモニタリング力）が不足しているからではないか？」
とアセスメントしました。

そこから看護師と作業療法士が協働により作り上げていったのが
「退院支援マップ」。
これは入院直後から、患者さんが自分をモニタリングし、対処法の知識を得て、
実践するまでを一連のプログラムにしたものです。

本特集では、「退院支援マップ」の中身にも注目いただきつつ、
どのように多職種協働を成し遂げたのか、その過程にも注目いただきたいと思います。

